

別紙資料

香川県は、「交通事故死者数に占める高齢者の割合」や「人口 1 万人当たりの自転車事故件数」が全国 1 位（平成 22 年）であり、特に高齢者事故や自転車事故への対策が急務となっています。これらの事故が発生している代表的な箇所において、様々な方の視点から問題点を把握するべく、合同現地診断を開催いたします。

【合同現地診断箇所の概要等】

○交差点名等：国道 11 号 新居西下所交差点〔高松市国分寺町〕

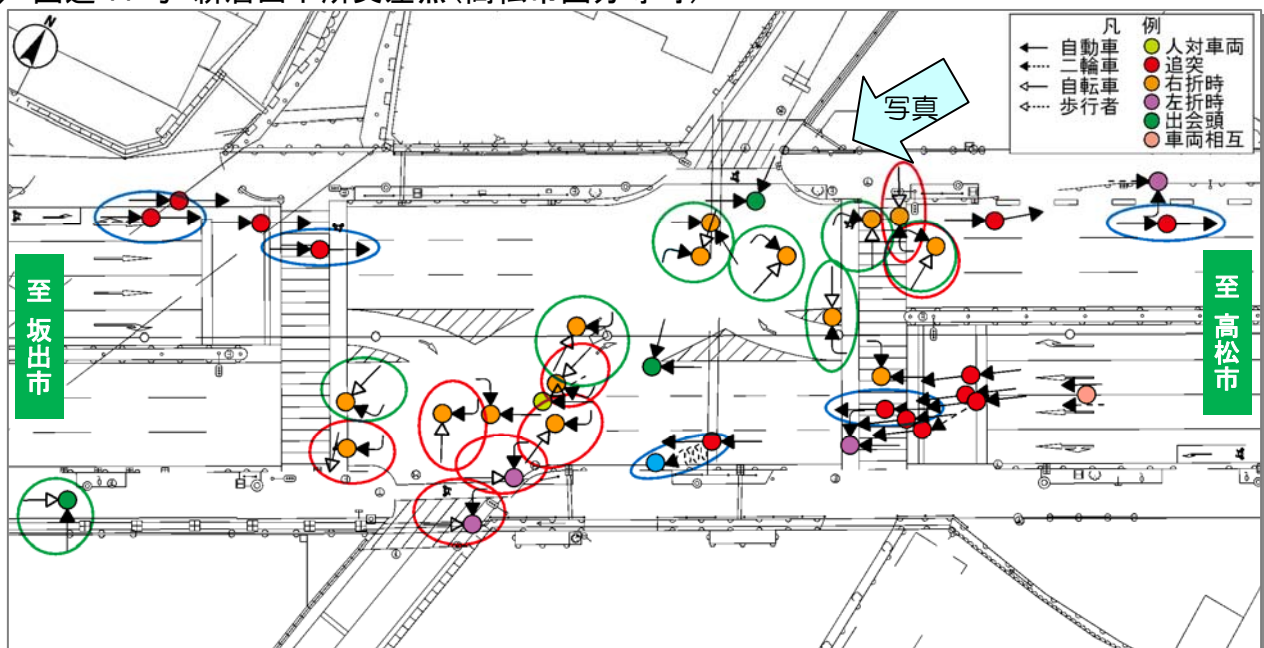
○交通特性及び道路構造の特徴

- ・交差点北に端岡駅があり、通勤時間帯は自転車の交通が特に多い。
- ・細街路が幹線道路と斜めに交差しているため、幹線道路における自転車横断帯間の距離が、直角に交差する交差点より長くなっている。

○事故の発生状況：細街路からの自転車交通は横断帯まで迂回せずに斜めに横断し、対向の右折車と交差点内で衝突する等、ショートカット時の事故が多い。



◇ 国道 11 号 新居西下所交差点(高松市国分寺町)



【 事故発生状況図 】

※出典：警察事故データ(H19-H24)

※ 赤丸は自転車の横断中の事故、青丸は高齢者が係わる事故、緑丸は自転車・高齢者が係わる事故